©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室

国連憲章改正

具体化に問題残す

国連総会の立法府化など

四十五対二十の採決でこれを削除

なう。

解説 国連憲章の改正を求める世界連邦政府への「東京提案」は、世界連邦政府への構想と国連に対する肯定的勧告に分かれている。一九五三年のコペンハーゲン大会で提案されたいわゆる「コペンハーゲン提案」を基礎に、翌五四年のロンドン大会、六一年のウィーン大会で修正を積み重ねてきたもので、昨年特別の起草委員会（十六人、ニールセン委員長＝デンマーク）を設け、一年間みっちり最終的な検討を続けてきたもの。日本で大会が開かれた場合の議、われわれはいっそう具体的な行動に乗り出す協会の態度が注目される。

また同時に世界連邦の運動をアジア、アフリカ、中南米へと拡大させ、処女地の共産圏にも理解を求めること（湯川会長、マ

c084-016-045

具体的に実行の姿勢示す

世界連邦協会「東京提案」への意見

【京都】世界連邦世界協会総会の各国政府に勧告する「東京提案」原案が二十九日、明らかにされたが、これは世界連邦運動を現実に一歩進め、具体的な内容を内外に示したものとして注目され、大きな反響を呼ぶとみられる。そこで各方面の意見を聞いてみた。

平沢興京大総長の話 これまで宗教的な立場から、あるいは平和論者といわれる人たちが、同じような考え方を声を高くして叫んできたが、多くは抽象的だったと思う。

こんどの"東京提案"は、具体的にできるところからやろうという姿勢がみられる。国連を否定するのではなく国連の機能をむしろ国連本来の趣旨に添うように変革してゆこうとする提案の内容は、世界連邦の運動が決して夢想家の集りでなく現実に足を踏みしめていることを示すものだろう。

もちろん"東京提案"ひいては世界連邦運動を実現させるには大きな困難があると思う。全般的にみて一番大きな問題のひとつは、独立国といわれる国の中にも大きく存在する経済的、知的、道義的な格差をどう埋めてゆくかだ。複雑な世界の様相を見極めるのは容易なことではない。しかし世界連邦運動の人人に望みたいことは、決して落胆しないでほしいということだ。人類の次の世代へのかけ橋として、ときにはシュバイツァーのように先を予見した"すばらしいおろかさ"を持つことが必要なのだ。

国連の限界破り前進へ目標

高野雄一東大教授の話 世界の平和を確立し人類の福祉を実現するために世界は、国際連盟から今日の国際連合にまで協力体制をすすめてきたのだが、この国連の体制は、世界平和と人類福祉を達成するために、本質的な限界をもっている。それは、従来の国際協力体制が、現在の国連を含めて、本質的に「国際社会」の基礎のうえに組織され、その活動がその基礎の上に考えられていることである。しかし、歴史的には「人類社会」的な要素が、この一世紀以来、一方で、次第に盛上がってきている。「東京提案」に現れた世界連邦の姿は、この人類社会的な歴史の前進の要素を基盤にとらえて、国連のもつ本質的な限界をつき破り、世界平和と人類福祉の真の実現に前進する目標を示すものだ。今日の「国際社会」とともに「人類社会」の見解を的確に組織と活動のうちにとらえ、世界議会を中心として、世界連邦が実現に向うことを期待する。

高い理想への肉づけに意義

太田垣士郎関西電力会長の話 私は率直にいって世界政府とか、世界連邦といったものが早急に実現するとは思っていない。しかし、東京や京都で英国のアトリー元首相がおこなった講演には深い感銘を受けた。世界連邦は大変に高い理想であると思う。そうしたものの樹立を願う声が、むかしから世界中に絶えないのは、ひとつには国際連盟や国際連合など過去、現在の国際機関に、それだけの実力や権威がないからだろう。

こんどは国連を基礎にして、かなり具体的な提案がされているが、高い理想に向って抽象的な願いが具体的な提案によって肉づけされてゆくことは意義深い。

c084-016-042

World Federalists End Kyoto Meeting

Asahi Evening

(Earlier Story on Page 3)

The Kyoto meeting of the 11th Congress of the World Association of World Federalists adopted the "Tokyo Proposals" with an amendment on Friday.

The "Tokyo Proposals," in effect, will appeal to various governments for efforts to reorganize the United Nations with the ultimate goal of establishing a world federation.

The amendment was the deletion of Article 2, which would have permitted the formation, within the framework of a world federation, of federations and alliances with the right of autonomy.

The article was deleted on the motion of the Canadian delegates which was approved by a vote of 45 to 20.

The Canadian delegates opposed the article on the ground that it might result in the formation of regional or racial blocks contrary to the spirit of a world federation.

The "Tokyo Proposals" was then adopted with a majority vote.

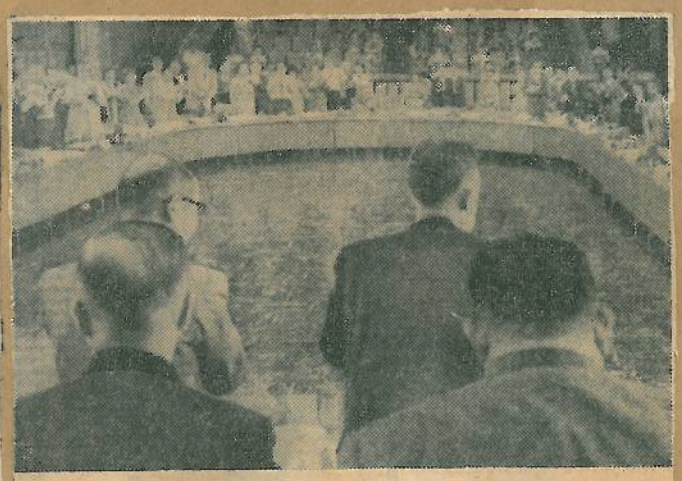
Foreign delegates expressed thanks to the citizens of Kyoto for making the meeting a success. They also thanked the Japanese people for their interest in the world federation movement.

The two-day meeting ended at 1 p.m. with an address by Dr. Toraji Makino, former president of Doshisha University. He said: "The end of the meeting is the beginning of action."

A directors' meeting held in the International Hotel chose San Francisco as the site of the next congress to be held in 1965.

On Friday evening public lectures on the world federation movement were held in the Kyoto Kaikan Hall. The speakers were David Stanley, U.S. delegate to the congress, Mrs. Rajan Nehru, wife of the Indian Foreign Minister; E. L. Mallalieu, Laborite member of the British House of Commons; and Dr. Hideki Yukuwa, re-elected president of the WAWF.

c084-016-043



世界連邦大会、拍手で閉会＝京都会館で

副会長にシーエン氏

世界連邦協会理事会

世界連邦協会は三十日京都で第十一回世界大会を閉会したあと午後二時半から、国際ホテルで新理事による第一回の会合を開き、副会長にW・シーエン氏（カナダ）を選んだ。また今後の運動方針として"東京宣言"を各国政府に送ること、加盟各団体がそれぞれの政府を通し国連改組案の「東京提案」を国連に反映することなどを決めた。二年後の次期大会をサンフランシスコで開くことも確認した。

大会を終わるにあたってマラリュー事務総長は「お互いの密接な結びつきをよりいっそう強め世界連邦の目的に向かって現実的な歩みを踏み出せる可能性を見出した」との談話を発表した。

（公開講演の内容は2面に）

なお理事は総会で選ばれた二十人のほか本部推薦などの二十八人を加え新理事四十八人のうち日本からはつぎの十人が選ばれた。

鮎沢巌（建設同盟、国際キリスト教大教授）▽中馬馨（都市協大阪市長）▽出口伊佐男（同盟大本教前総長）▽三木行治（都市協、岡山県知事）▽恋田倭文子（婦人協、京都外大総務理事）▽湯川スミ（婦人協、同盟会長）▽西村関一（日本協、国会議員）▽北村徳太郎（日本協会長、国会議員）▽川崎秀二（日本協副会長）▽福岡春一（日本協、自民党青年部員）

c084-016-044